

学校教育目標	「夢に向かって」
目指す学校像	希望をもって登校し、学校では笑顔で活動し、毎日満足して下校する生徒の育成
重点目標	1 確かな学力と発達支持的生徒指導の推進 2 豊かな人間性と健やかな体の育成 3 地域の豊富な資源の活用 4 安心安全な校内環境の整備 5 教員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価		学校運営協議会による評価
年 度 目 標					年 度 評 価		実施日令和8年1月24日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○全国学力・学習状況調査(R6)では、国語・数学・英語の正答率が市平均以下だった。(国語：57 数学：50) ○市学習状況調査(R6)の、「将来の夢や目標をもっていますか」の問いに対して肯定的な回答が78.5%であった。(R5 74.3%) 【課題】 ○各教科において基礎基本の定着のため、全教科で「話し合い活動」を充実させ、自分や他人の意見を自分事として捉える力を育成する。	生徒の基礎基本の定着、学びに向かう力の育成	①市教委による学校カウンセリングを実施し、全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果を分析し、授業改善を行う。 ②要請訪問を行い、一人1回以上の公開授業を行う。	①全国学力・学習状況調査や市学習状況調査で市平均を上回ることができたか。 ②教職員一人1回以上の公開授業ができたか。	①全国学力・学習状況調査は市平均以下の結果となった。 ②全教科で要請訪問や指導訪問を実施し、一人一回以上の授業公開を行い、授業改善に努めることができた。	B	・全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、市平均まで届かなかったため、さらに生徒の実態に応じて、授業改善を行う必要がある。また、習熟度別の学習を実施することで、学校全体の学力を底上げすることを期待し、教職員の時間割に設定する。
		生徒の基礎学力の向上のための、教員の指導力向上	①全教科で市教委の要請訪問を実施し、生徒の基礎学力定着のための教員の指導力・授業力を向上させる。	①「学びの指標」アンケート結果を分析し、授業改善に努め、第1回の数値より第2回の数値が上回ることができたか。	①「学びの指標」アンケートでは、第1回数値(3.20)より第2回数値(3.26)が上回った。	B	・引き続き、要請訪問や指導訪問を実施し、教職員の授業力向上を図る。また、話し合い活動の充実として、研修の充実を図っていく。
2	【現状】 ○学校評価(生徒)の「土屋中学校で生活するのが楽しい。」の問いに肯定的な回答した生徒の割合は92.3%(R5 95.3%) ○生徒会活動を中心に、生徒の主体的な活動の場面を設定する。また、生徒会や各委員長、部活動部長を集めた組織を作り、生徒の生徒による生徒のための学校を目指す。 【課題】 ○学校生活の不安や不登校傾向や配慮を要する生徒が増加している。 ○おはようメーターの定着。	希望をもって登校し笑顔で活動し満足して下校する生徒の育成	①学校行事については、完全実施を行う。また、新たに40周年の記念行事として文化祭等、生徒が中心となる行事を計画する。 ②学校行事に地域や保護者が積極的に参加できるように、周知活動の充実を図る。	①学校評価(生徒)の「生徒は互いに認め合い助け合っている」に関わる項目で肯定的な回答の割合が昨年度より上回ったか。(昨年度 91.6%) ②学校評価(保護者)の学校行事に関わる項目で肯定的な回答の割合が昨年度より上回ったか。(昨年度 90.5%)	①学校評価(生徒)の「生徒は互いに認め合い助け合っている」に関わる項目で肯定的な回答の割合が、97.0%(昨年度 91.6%)となり、昨年度よりも5ポイント以上上昇した。 ②学校評価(保護者)の回収率が87%となり、昨年度(69.1%)と比べ上昇した。	A	・学校行事においては、40周年記念式典の他、今年度新たに文化発表会を実施した。そのため、生徒の学校行事に対する充実感は得られた結果となった。保護者については、積極的に参加するとともに、参加方法についてお来年度に向けて再考する必要がある。
		生徒を中心とした活動の活発化	①生徒会の新たな組織を立ち上げ、生徒からの意見等を吸い上げ、生徒の生徒による生徒のための学校を構築する。また、生徒の考えを取り入れ、学校運営協議会や職員会議に参加しプレゼンテーションを行う。	①生徒主体の運営により取組について、実施することができたか。	①新たな組織「心染色“こんぼす”」を立ち上げ、生徒からの意見等を吸い上げ、生徒の生徒による生徒のための学校を構築することができた。「心染色“こんぼす”」からは、自販機・テスト期間・校庭に照明設置・武道場のエアコン・HP掲載・居残り学習等の提案があった。また、生徒の考えを取り入れ、学校運営協議会や職員会議に参加しプレゼンテーションを行った。	A	・「心染色“こんぼす”」の取組については、まだ発展途上の段階である。さらに定着を図り生徒を学校の真ん中に置いた取組を行う。学校運営協議会や職員会議等に積極的に参加をさせ学校全体を自分事とした取組を進める。
3	【現状】 ○学校運営協議会で、本校学校教育目標の具現化のため、地域が学校に望むことについて意見をもらい、地域とともにさらに良い学校を築くために再考をする。 ○公民館や地域等で中学生の活動する場において、参加が薄れている状況が見られる。 ○近隣の小学校、高等学校との連携し、小中高の12年間を想定した教育を実践する。 【課題】 ○学校行事の完全実施をするとともに、地域や近隣校と積極的に協力し活動を実施する必要がある。	学校運営協議会を中心とした生徒の活動場の設定	①学校運営協議会で、「地域が学校に望むこと」について意見をもらい、学校経営に生かす。また新たな委員を加え組織を再編する。 ②地域や公民館等の活動に生徒が積極的に参加できる手立てを計画する。	①学校運営協議会で出された意見について、具現化した取組が行われたか。 ②学校評価(地域)で「中学生が地域行事の参加に積極的である」の項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(昨年度 62.5%)	①学校評価(地域)で「中学生が地域行事の参加に積極的である」の項目で、肯定的な回答が、66.7%(昨年度 62.5%)となり昨年度よりも上回った。	A	・地域行事の募集については積極的に生徒に呼びかけた。地域には魅力のある様々な行事があるため、来年度はさらに呼びかけを強化し、多くの生徒が積極的に参加できるようにする。
		地域の小学校、中学校、高等学校との連携・交流	①校区内小学校や近隣中学校と自然体験に取り組んだり校区内小学校の生徒指導委員会に参加したりして十分な連携を図る。 ②大宮光陵高等学校・大宮武蔵野高等学校と連携し、学習や部活動での交流を図る。	①中学校区の小学校と近隣中学校との連携した取組ができたか。 ②高等学校と連携した取組を行い、充実した交流を実施することができたか。	①近隣校の特別支援学級による田植え・稲刈り体験を実施した。また、校区小学校の生徒指導委員会に参加し、児童生徒の情報共有を行うことができた。 ②夏季休業中に大宮光陵高等学校と連携をし、本校生徒に対する学校見学会を開催した。	A	・引き続き、田植え・稲刈り体験を実施していくとともに、通常学級においても総合学習で取り入れていく。 ・大宮光陵高等学校のみならず、大宮武蔵野高等学校とも連携を取り、交流活動のさらなる充実を図る。
4	【現状】 ○Sola る一むの設置については、現在さわやか相談室と併用している。 ○校内の環境については、古くなった箇所が多々あり、修理を必要とする場所がある。 【課題】 ○Sola る一むについては、場所を確保し教室環境整備が必要である。 ○修理を必要とする箇所について、迅速に修理・改善をする必要がある。	Sola る一むの設置及び運営	①PTAと連携し、場所を確保し、教室内整備を早急に行い、運営する。 ②市教委に依頼し、校内のwi-fi環境を整備する。また、一人1台PCの完全配付を行う	①7月を目的に、Sola る一むを開設し、今年度で運営を軌道に乗せられるようにする。 ②wi-fi環境の整備や、一人1台PCを配付できたか。	①Sola る一むについては、PTAの協力もあり7月に開設することができた。 ②一人1台のPCについては、10月に全生徒に配付することができた。しかし、wi-fi環境の改善は、予算の都合上整備することができなかった。	C	・Sola る一むの運営については、生徒の実態に合わせた取組を実施する。 ・wi-fi環境については、来年度の教育委員会予算で、環境改善を行っていく予定である。
		校内の修理・改善	①毎月安全点検を実施し、修理等が必要な箇所を把握するとともに、市教委と連携して改善する。 ②事務職員や業務主査と連携し、校内で改善できる箇所は迅速に対応する。	①毎月の安全点検については、管理職が確認し、危険箇所等を把握することができたか。 ②事務職員や業務主査に適切に指示を出せていたか。	①毎月の安全点検は滞ることなく実施した。必ず管理職が確認し、速やかに修繕することができた。 ②大きな修繕箇所については、事務職員や業務主査に指示を出し、改善を図った。	B	・修繕箇所も多くなってきたため、教育委員会とも連携し、危険箇所等については速やかに改善を図る。
5	【現状】 ○今年度の本校の研究課題として、基礎学力の定着のため「話し合い活動」を中心に、研修を学期に1回以上実施する。 ○様々な教育課題に適切に対応ができるよう、実践的な校内研修が必要である。 【課題】 ○研究した内容を、全教職員で共有し、深め実践する能力を育成することが必要である。 ○経験年数が少ない教職員もいるため、より実践的な研修が必要である。	特別活動を中心とした研修の充実	①講師を招き、専門的な知識を得るとともに、公開授業を実施し研究協議会を行い、実践力を身に着ける。	①学校評価(教職員)の校内研修に関する項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(昨年度 70.9%)また、講師を招き専門的な知識・実践力を身に着ける。	①講師を招き、特別活動・道徳について研修を実施した。専門的な知識と実践力を身に着け、生徒の活動に還元していくことができた。	B	・今年度は、特別活動を中心とした話し合い活動を重点において研修を行った。来年度は、定着のためさらに公開授業等で実践力を高めていく。
		生徒指導・教育相談を中心とした研修の充実	①校内研修で専門的な講師からの講義や校長会主催の生徒指導・教育相談研修会に参加し、生徒や保護者に適切な対応ができる実践力を身に着ける。また、小中合同の研修会を開催し、小中の連携をスムーズにする。	①学校評価の「いじめ対策として、早期発見・早期解消に努めている」の項目で、肯定的な回答が昨年度を上回っているか。(昨年度 63%)	①学校評価(保護者)の「いじめ対策として、早期発見・早期解決に努めている」の項目で肯定的な回答が、65.7%(昨年度 63%)となり、昨年度よりも上昇した。	A	・道徳の講師を招いて研修を実施したり、生徒指導・教育相談研修会に積極的に教職員が参加した。今年度、校内の生徒指導・教育相談体制を再構築した。来年度はさらに迅速に、組織的に対応を行えるようにする。

・地域行事に、生徒が参加することについては、学校よりPTAの広報で、より広く広報をしていく必要がある。  
 ・田植え、稲刈りの体験活動は、来年度以降も続けていくべきと考える。

・Sola る一むが開設していることを、多くの保護者が認識していないため、広報活動が必要である。今後は、学校職員と地域が一緒となって運営していくことも視野に入れていくことを考える必要がある。  
 ・wi-fi環境の整備は、市教委と連携をしていく。

・研修に対する肯定的な意見が低い、教職員の学びの場である。特別活動と道徳は、これからの時代に必要なたため、継続的に実施してもらいたい。  
 ・SNSやインターネットの指導については、指導して改善しての繰り返しのため、粘り強く指導をしていく。

